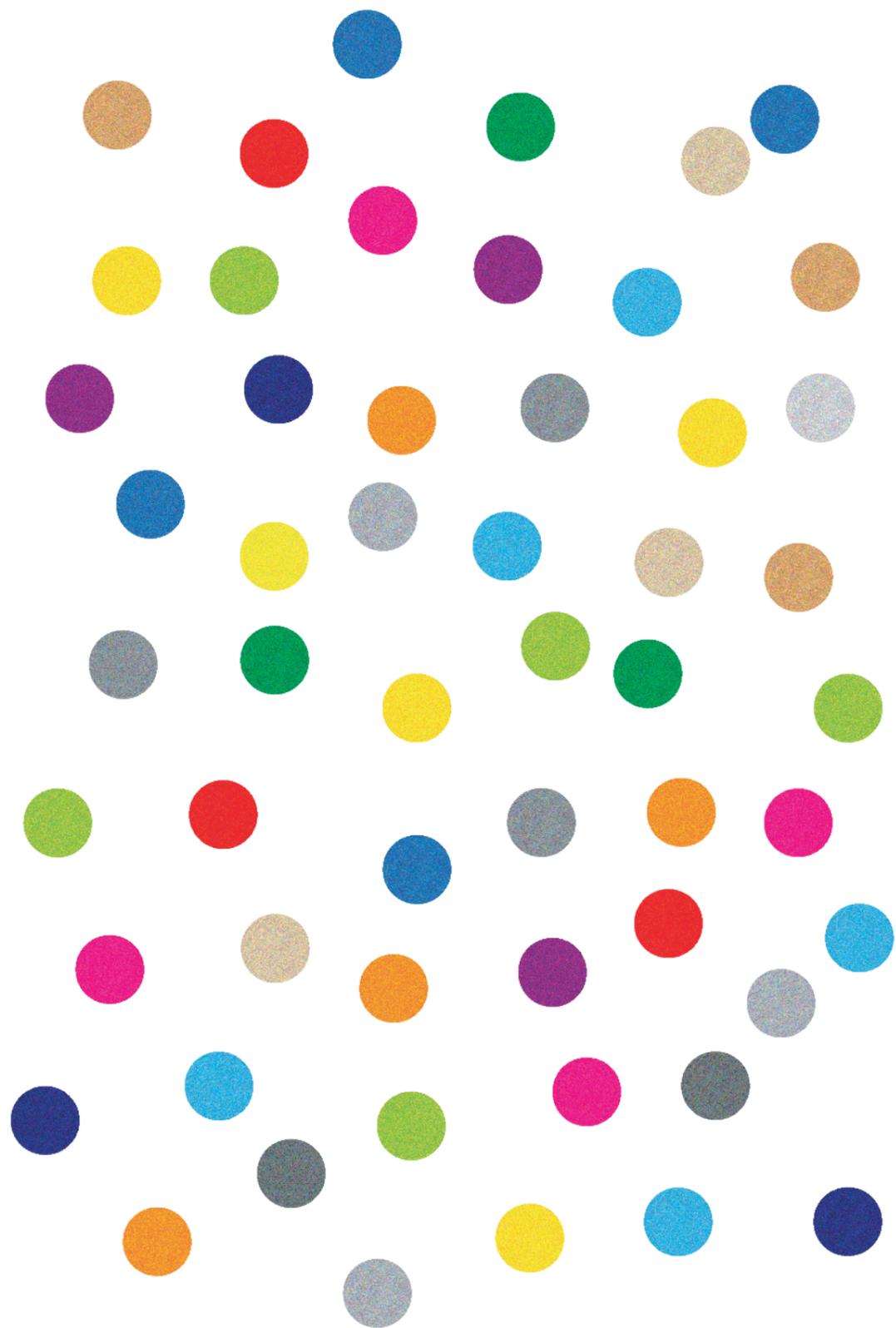


もし、クラスで 浮いていると感じているなら

北星学園余市高等学校は全日制普通科高校です。不登校や高校を中退した生徒を受け入れています。もしかすると不良が集まる特別な学校というイメージを抱かれているかもしれません。確かに過去にはそういう時期があったのですが、テレビや新聞ではわかりやすい部分が強調されており、学校の実態とはズレがあります。また、近年、不登校の実態は大きく変化しています。

北星余市には、全国から様々な背景を持った生徒たちが集まっています。現在は、大人しいタイプの不登校を経験してきた子が7割ほど、やんちゃな子が2割ほど。そのほか、進学校での勉強ばかりの人生に疑問を感じた、スポーツ特待生として入学したものの怪我をした、発達障害と診断され特別支援学級に所属していたが普通科高校に通いたいなど、様々な事情の生徒たちが集まっています。中学を卒業後、ストレートに入学してくる子がおよそ8割、残りは、地元の高校や通信制高校などに入学してから転校してくる過年度生です。高校を中退して数年働いてから入学し直す子もいますから、成人している生徒も珍しくありません。彼ら、彼女たちは、同調性を重視する学校において、「自分は浮いてる」と感じていた生徒たちです。



いろいろな人がいるから 自分の居場所が見つかる

北星余市では、様々な背景を持った生徒たちが、様々な文化を持ち寄って、多様性を保ちながら暮らしています。同調性を強く求められる世界では浮いていると感じていた生徒たちも、個性的な人たちが集まる北星余市では、自分の居場所を見つけて暮らしています。自分に似たタイプの人に出会うかもしれません。もしくは、今まで出会わなかったタイプの人と出会い世界が広がることもあるでしょう。北星余市の教育は、特性や過去の経験で生徒を分けない「ごちゃまぜ教育」です。教師も一緒に立ち止まり、悩み、怒り、泣き、笑います。通信制高校との最大の違いは、クラスメイトや先輩とつながりながら、自分の居場所を見つけること。時間をかけて生徒と関わる、生徒一人ひとりを人間として尊重する。そんな当たり前のことを地道に続けたら、気がつくと、日本では類を見ない学校になっていました。



都道府県別生徒数 (2021年5月現在)

北海道	87	長野	1	鳥取	0
青森	1	愛知	9	島根	0
岩手	1	岐阜	1	山口	0
宮城	1	新潟	2	愛媛	1
秋田	1	石川	0	香川	0
山形	2	富山	1	高知	0
福島	2	福井	1	徳島	2
茨城	3	三重	0	福岡	1
栃木	1	滋賀	1	宮崎	0
群馬	2	京都	2	熊本	0
埼玉	7	奈良	2	大分	0
千葉	8	和歌山	0	長崎	1
東京	16	大阪	10	佐賀	0
神奈川	13	兵庫	4	鹿児島	1
静岡	3	岡山	1	沖縄	2
山梨	2	広島	1	合計	194









学校に行けない、 行きたい場所じゃない

人間関係につまづき、その修復がままならず苦しんでいる。勉強やスポーツで過剰な負担に苦しんで抜け出せずにいる。家庭環境の影響で自分も不安定になってしまっている。気がついたら他人が怖くなってしまっていた。小さなことが積み重なり社会に馴染めず、自分を認められずに生きている。そんな過去を持っている子たちや、現状から抜け出せずにいる子たちにも、未来をつくっていける可能性があります。一人では難しくても、ここ北星余市で、みんなで支え励まし合いながら過ごすことが、現状を変える大きなきっかけになるはずです。

この冊子の写真に写る生徒たちの日常の姿。北星余市に入学する前の彼や彼女は、尖った目をし、憂鬱な顔をし、うつむき、反抗し、自分を否定し、部屋にこもり、あるいは家に寄り付かず、自分を閉じていました。そんな子たちが、今を変えたいと北星余市に入学し、こうして生活を送っています。5年、10年、20年、もっと先、子どもたちが豊かに、幸せを感じながら生きていって欲しい。そして、社会ももっと豊かになって欲しい。私たちは、北星余市に入学した子どもたちとともに、かけがえない高校時代を大切に過ごしたいと考えています。



歴史 / 教育方針	16
あいさつ	18
教科指導	20
生活指導	22
年間行事	24
職員室	28
寮・下宿生活	30
進路指導	32
余市町	34
学校見学	38

歴史

北星余市高校はアメリカ人宣教師サラ・C・スミス女史が設立した北星学園建学の精神を受け継いだ全日制普通科のキリスト教主義学校です。1965年の創立以来、余市・小樽近郊の教育の機会を失った生徒たちを受け入れ、1988年からは全国の高校中退者を積極的に受け入れるようになりました。

現在は、高校中退者が全校生の約30%、また不登校経験者が約70%に及びます。北星余市はキリスト教精神に基づき、集団を基礎に教育することで、優しさと強さを兼ね備えた人間を育てることに力を注いできました。通信制高校などでは得ることのできない人間教育を実践しています。



教育方針

1. キリスト教の精神にもとづき、教育が行われます。
それは、皆が力を合わせて愛し合い、
助け合って生きていくことを共に考えていこうというものです。
2. 明るく、健康な体を鍛え、自然や社会を正しく科学的に
判断できる力を養うことを、教科指導を通して追求します。
3. 生徒を集団の中で育て、個人や集団の自主性、自発性、
自治能力を育て、高めていきます。
4. 教育活動を支える優れた教師集団づくりを大切にしています。
5. 父母、教師、生徒が一体になった教育を進めていきます。





個人は集団の中で成長する 社会で生きていく力は 集団の中で育つ

個別学習で教科指導に力を入れる学校、ダンスや音楽など好きな分野の力を伸ばす学校、朝が苦手な生徒のために始業時間を遅らせている学校など、現在は様々な特徴を持った学校が存在します。その中で北星余市は「人との関わり」を大切にしています。社会で生きるには「自立」と「共存」という一見矛盾するふたつの能力が求められます。成長するとは、親から自立し、自分の足で立って生活できるようになることです。しかし、人は一人では生きられません。教育学者の大田堯さんは著書である『教育とは何か』の中でこう述べています。

— 時代により、社会により、その程度にちがいはあっても、自分で自分を導くことができること、自立をしながら、それを前提として参加し、かつ依存する、いわばそれぞれの人間が持ち味のちがいを前提にしながら、ある社会的部署に出番を持つ能力を発達させる、それがおそらく、いまま昔も変わる事の無い一人前たることの要件なのでしょう

学校教育の基本は「教科指導」と「生活指導」です。さらに大半の生徒が寮下宿で生活を送る北星余市では、寮下宿における指導も加わります。それらを通じて個人が成長し、集団が成長し、成長した集団の中でさらに個人が成長するという循環を繰り返し実践しています。人が成長するためには、人の存在が欠かせません。どんなに自問自答を繰り返しても、PCの画面に向かっても、参考書を広げても、一人で成長するのは難しいでしょう。他人と関わることを通じて、考え方や生き方の違いを発見し、自分に照らし合わせてみる。そして自分はどう生きていくのかを探る。他者とのつながりや関わりを通じて、自分自身を理解し、自分の出し方を理解したり、何かしら行動を起こすことで達成感を得たり、誰かに支えられたり、誰かを支えたり。そうしたことが、社会で生きる個人を育むためには欠かせません。多様な価値観に触れることで、世界が広がります。

自分に自信がなかったり、人間関係づくりが苦手な子どもたちには特に、集団の中で時間を過ごして

欲しいと考えています。教科の力をつけるのは大切です。好きなことを追求することも大切です。しかし、そうした力を身につけても、人間が生きていく上での根本となる「人との関わりの中で生きていく力」が育たないままに、消化しきれない何かを抱えて生きている若者が多く存在することを私たちは知っています。高校卒業後は、支援してくれる機関はありますが、共存する力を育んでくれる機関はありません。大きな宿題を残したまま「大人」になるのではなく、子どもたちには、私たちと一緒に、人と関わる経験をして欲しいと考えています。

そして、個人として豊かで満ち足りた人生を送りながら、豊かな社会づくりに何らかの影響を与える、そんな人に育って欲しいと考えています。

教師一覧

左上から小野澤慶弘(保健体育)、今堀浩(入試)、平野純生(校長)、藤波優(理科)、塚原治(国語)、小杉遼河(社会)、成田健太郎(数学)、安河内敏(国語)、紺野良子(音楽)、菊地淳(保健体育)、谷口学(英語)、妹尾克利(教頭)、福田綱基(国語)、塩見耕一(聖書)、菅野瑞希(保健体育)、中村希絵子(英語)、鈴木恭子(英語)、田中梨捺(数学・情報)



九九からでも。ABCからでも。
一から一緒にやりましょう。

1

教科指導

今まで勉強してこなかった子どもが、学校の授業についていけるでしょうか？という質問をよく受けます。はい、大丈夫ですとお答えしています。小学校から不登校だった子、勉強する意味が理解できずやる気のない子など、様々な年齢の生徒が入学してきます。わからないのもできないのも当たり前。わからないからこそ学ぶのです。仮に中学校の勉強がすっぽり抜けていたとしても、人より3年間遅れているだけ、人生80年のうちのたった3年です。ゆっくりじっくり学び直して力をつければ、そのうち追いつきます。必要なのは「やろう」という意思。私たちは「自分の将来のために一から頑張ろう」という意思を大切にします。わからないことを恥じる気持ちを、だから今から頑張ろうという意思に繋げればよいのです。

生徒たちは、勉強の必要を実感し、楽しさを見つけさえすればやります。勉強しない子どもたちの多くは、モチベーションが見つからないのでしょう。自信を持ち、興味関心の湧くことが見つかると、将来を考え始めたときに、人一倍の力を発揮する子が数多くいます。基礎学力をつけることはもちろん大切ですが、例えば、数学のグループ学習を通じて教える側も教わる側も理解を深めたり、社会では調べ学習をしディベートやプレゼンをしたり、国語では「北星余市川柳」を作って自分の感じていたことを言語化し人の心に届くように表現したりと、同級生や教師との関わりの中で、多様な価値観に触れ、自らに取り入れ、表現する力を育むことを大切にしています。

教科指導について
もっと詳しく！



生徒たちの生活を
まるごと見守ります

2

生活指導

人 生は一本の時間軸です。学校、家庭、友人関係、それぞれの場面で起こった出来事が他の場面に影響し、生き方が作られていきます。ですから、私たちはできるだけ「これは学校の責任、これは家庭の責任」と分けないことにしています。昼間は学校で、夜は寮下宿の管理人さん、保護者の方と連携しながら、生徒たちの生活をまるごと見守ります。

生徒たちは、クラス、年間行事、部活動、寮下宿生活、地域との関わりなど、生活のあらゆる場面、あらゆる機会を通じて成長していきます。一人ひとりの生徒たちは集団の中で可能性を引き出され、活かされ、成長します。個が成長すると、集団がより良質なものと成長し、それに応じて個はさらに成長する。そんな繰り返しが3年間続きます。そのときに大事なことは、それぞれの個性を活かすこと。良いところをさらに伸ばしたり、集団の中で活かすことのできるよう導きます。また、未熟なところをどう補えるのか、改善できるのかも一緒に考えます。それは、教師との個人的な関係だけでなく、友人や先輩たち、寮下宿の管理人なども含んだ関わりの中で支えられ、考え、向き合う場合もあります。



生活指導について
もっと詳しく！



生徒たちは
行事を通して
成長していきます

3

年間行事

個 人や集団が成長する上で学校行事はとても重要です。個性豊かな個人が集まり一つの事柄を成し遂げようとする過程で、様々な関わりが生まれます。各自の持ち味が活かされたり、考え方の違いに議論が生まれたりする経験を通して、他者を受け止め、個人の幅が広がり、集団が成熟していきます。

毎年5月に開催される1年生研修会を皮切りに、強歩遠足、弁論大会、スポーツ大会、学校祭など、1ヵ月に1度のペースで学校や学年単位での行事が用意されています。各行事はエネルギーに満ち溢れ、その時々に見せる生徒の表情は青春を生きる証のよう。また、放課後には、ライブ、ゲーム大会、ミニスポーツ大会、クッキングパーティーなど様々な企画が催され、生徒たちは楽しい時間を過ごしながら、様々な経験と人との出会いを重ねていきます。学校行事や放課後の活動は、全校生による投票で選ばれた12名の生徒会執行部によって企画運営されます。教師はそのお手伝いをするという立場。自分たちで考え、作り上げていく取り組みは、個人や集団の力の源となっています。

生徒の声
こうした経験を通して、子ども達が何を感じて考えたのか、ぜひご覧ください。

ブログ「北星余市は、いま！」
イベントレポートをアップしています。

- 4月 入学式
対面式
- 5月 PTA総会
生徒総会
- 1年生研修会
- 6月 強歩遠足
- 7月 校内弁論大会
夏季スポーツ大会
- 9月 学校祭
学校見学会
同時開催
- 11月 修学旅行
(2年生・沖縄4泊5日)
- 12月 冬季スポーツ大会
クリスマス礼拝
- 1月 スキー授業
- 2月 卒業礼拝
予餞会
スキー遠足
- 3月 卒業式



01 強歩遠足 北星余市の名物行事です。最短コースは30km、元気な人は50km、最長コースはなんと70km! 02 卒業式 思いのたくさん詰まったひとつの節目。喜びと寂しさ。03 1年生研修会 1年生は校外で1泊の研修会を行います。ハイキングや集団ゲームを通して、学校生活に少しずつ馴染んでいきます。04 スポーツ大会 夏と冬の2回、クラス対抗のスポーツ大会を開催。05 スキー授業 学年ごとに2泊3日のスキー授業。06 修学旅行 4泊5日で沖縄の戦跡を訪ね、平和の大切さを学びます。沖縄ならではのマリンスポーツも。07 学校祭 ユニークな模擬店、合唱コンクール、太鼓演奏、父母のコーラスなど盛りだくさん。生徒主役の、みんなで作る学校祭。08 校内弁論大会 過去の経験を通じて語られる弁論の内容は実体験が伴ったリアルで濃いものが多く、他の生徒達に大きな勇気と感動を与えます。



4

職員室

授業に限らず、北星余市の教師陣はみな熱心です。生徒の意欲や悩みにとことん付き合います。生徒と信頼関係を築くためには、人と人との関わり合いが重要だと信じているからです。そんな現れのひとつが職員室。昼休みはもちろんのこと、授業の間の10分休みや放課後にも生徒たちが自由に入ってきて、教師や友人たちと語り合っています。生徒たちにとって憩いの場なのです。



職員室の様子をアップしています

クラスで居場所が見つからないときは職員室へ行く

職員室は家のリビングみたい
気軽に行って先生と恋バナしたり

先輩や後輩と
どうでもいい話をしたり

入れない……人が多すぎて(笑)

先生と楽しい会話ができる
職員室なんて初めて

大人というより
理解者がいるってかんじ





寮母は余市のお母さん 先輩は、お姉さんやお兄さん

5

寮・下宿生活

本 校生徒の約6割が道外出身です。道内でも余市から遠い地域の出身者も加えると、およそ全校生の8割が寮下宿生活を送っています。余市町内に、北星余市と提携し、原則的に北星余市生のみを受け入れている指定寮下宿が（男子11軒、女子5軒）*あります。いずれも町民による民間経営。規模の大小はありますが、町民のお宅にホームステイするようなイメージです。寮下宿の管理人さんは、食事とベッドを提供するだけではありません。余市のお父さんやお母さんとして子どもたちを見守ってくれます。家庭的な雰囲気でも温かく、ときには自分の娘や息子と同じように厳しく指導してくれることもあります。寮下宿での出来事だけでなく、学校生活、プライベートなことまで親身になって相談に乗ってくれます。北星余市では管理人さんたちと連携して、子どもたちの余市での生活を見守っています。

そして、そうした大人の見守りだけでなく、生徒同士がお互いを支え合う関係性もあります。先輩は良きお姉さんお兄さんとして自分の経験を踏まえて親身になって話を聞いてくれますし、同級生と一緒に学校生活を送る仲間です。教師、寮の管理人、先輩、同学年の友人、後輩など、様々な立場の人が関わり、支え合って生活していく北星余市ならではの環境です。

* 2021年8月現在

寮下宿について
もっと詳しく！

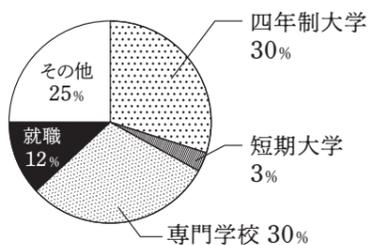


卒業したら何しよう？
「自分探し」を手伝います

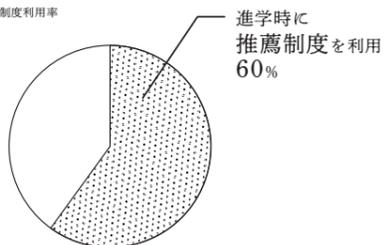
6

進路指導

2020年度の卒業後の進路



進学時の推薦制度利用率



卒 業後の進路は様々です。進学者は主に指定校推薦制度を利用しています。1学年生徒数の5倍を超える推薦枠から自分の進みたい分野を選びます。また、系列校である英語や福祉に強い北星学園大学への推薦枠もあります。人手不足の昨今、就職を希望する生徒は叶うことが多いです。

大事なのはどう生きるかということ。どの出口に進むのかということだけが重要ではありません。むしろ、それ以上に、自らを知り自分がどう生きていくのかを日々模索する姿勢、つまり、生き方の根本、そのきっかけを掴んでもらうことが重要だと考えます。北星余市での進路指導は3年間の高校生活の全てであると考えますし、どの進路だから価値があるとか、進路先に優劣はありません。一人ひとりがその人なりに社会と関わり、個人の豊かさと幸せを追求していくこと、それが結果として社会への貢献となっていることが大事だと考えます。

在学中の日常の取り組みや生活全般を通じて得た経験は、北星余市を卒業した後も活かされます。卒業してからあらためて必要性を感じるものに出くわすこともあります。その必要なものを得るための土台となる「自らを育む力」はその時に応じて発揮してくれます。

一環として、東京の一般社団法人 HASSYADAI.social との連携授業や、外部から講師をお招きし、様々な生き方や考え方に触れる機会を「進路カフェ」として実施しています。そのほかにも、長期休暇を利用した海外研修の企画など、様々な機会を設けています。



進路指導について
もっと詳しく！



過去数年分の進路

これまでの卒業生の進学先（過去5年分）

大学・短期大学

北星学園大学、北翔大学、札幌大学、札幌学院大学、札幌国際大学、北海道医療大学、北海道科学大学、北海道情報大学、酪農学園大学、旭川大学、和光大学、青山学院大学、明治学院大学、駿河台大学、江戸川大学、東洋学園大学、桜美林大学、立正大学、東京工芸大学、東京農業大学、文化学園大学、国際基督教大学、関東学院大学、千葉経済大学、開智国際大学、聖学院大学、埼玉工業大学、静岡産業大学、名古屋学院大学、京都精華大学、龍谷大学、大阪成蹊大学、大手前大学、明海大学、京都芸術大学、千葉経済大学短期大学部、北星学園大学短期大学部、光塩学園女子短期大学、新島学園短期大学

第二の故郷となる 北海道余市町

余市町は北海道でも気候に恵まれた土地として知られ、海、山、川やりんご、さくらんぼ、ぶどうなどの果樹園が広がる風景は南フランスに例えられることもあります。温泉やニッカウキスキー余市工場、ワイン工場、縄文時代の遺跡など、歴史ある見どころがたくさん。小樽や札幌へはJRで30分～1時間程度。賑やかな都市とも程よい距離感で、学びの場として最適です。

寮下宿周辺には、ショッピングセンターやスーパー、ホームセンター、大型家電店、レンタルビデオ店などが軒を連ね、生活に必要なものは近所で揃います。学校から海までは歩いて10分。放課後、浜で語らう生徒たちの姿は伝統になりました。冬にはスキーやスノーボードなどのウィンタースポーツを楽しむに、ニセコやキロロまで足を伸ばす生徒も。



平均気温 **8.1℃** 人口 **18062人**
(2021年6月末現在)



Googlemap



余市町
ホームページ

アクセス

- 余市町 ○ JRで1時間20分 ○ 札幌
- 余市町 ○ JRで25分 ○ 小樽
- 余市町 ○ JRで2時間 ○ 新千歳空港
- 余市町 ○ 高速道路で1時間30分 ○ 新千歳空港







学校見学

平日なら毎日
受け付けています

受験を考えるにあたって気になるのが、実際の学校生活。在校生がどんな学校生活を送っているのか実際に見に来てください。北星余市では、日曜・祝日を除く9:00～17:00であれば、基本的にいつでも学校見学が可能です（例外もありますのでお電話でご確認ください）。土曜日、夏休みなどの長期休みに見学いただくのも良いのですが、平日がお勧めです。なぜなら、生徒たちの普段の様子が見えるからです。全校生約200名の授業の様子、休み時間の様子、寮下宿での生活などありのままの姿を見てください。そして、自分がその場にいることをイメージしてみてください。なお、学校見学にかかる時間は1時間程度です。面談→校内見学→面談という流れが多いです。

ほとんどの方が、下宿見学もされています

「せっかく余市まで来たのだから……」ということで、住む場所となる下宿をついでに見ていかれる方がほとんどです。学校見学後に下宿見学も希望されるようでしたら、その旨お伝えください。所要時間は、移動も含めて1軒につき30分から1時間ほど。多い人で3軒くらい見学になられます（たくさん御質問される方、じっくりご覧になりたい方は少し時間がかかります）。余市町内の地理感覚や車等の交通手段のない方のために、寮下宿の管理人さんが学校まで迎えに来てくださる場合もあります。詳しくはお電話でお問い合わせください。

見学希望の方は、
WEB申し込みまたはお電話をお願いします。

WEB 右手のQRコードからお申し込みください。

電話 0135-23-2165（職員室直通）



土曜「平日は行けない…」
見学という皆さまへ

学校見学会

年に2回、土曜日開催の学校見学会があります。学校の説明や個人面談、寮下宿見学も実施。



詳しくはWEBサイトを
ご覧ください。

道外「北海道にいきなりはちょっと…」
の方という皆さまへ

全国教育講演・相談会

毎年、全国20箇所以上で教育講演・相談会を実施しています。進路相談だけでなく教育に関する悩みや問題を教師はもちろん、PTA、卒業



生などを交え、一緒に考えます。
各地域の日程、詳細はWEBサイトを
ご覧ください。

LINE公式アカウント

質問や相談など、なんでもお気軽にお問い合わせください。



北星学園余市高等学校

〒046-0003

北海道余市郡余市町黒川町19丁目2番1号

Tel. 0135-22-6211 (代表)

Tel. 0135-23-2165 (職員室)

Fax. 0135-22-6097

Email. hokuseiy@hokusei-y-h.ed.jp

www.hokusei-y-h.ed.jp



学校法人 北星学園

北星学園大学大学院

北星学園大学

北星学園大学短期大学部

〒004-8631

札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

Tel. 011-891-2731 (代表)

北星学園女子高等学校

北星学園女子中学校

〒064-8523

札幌市中央区南4条西17丁目2番2号

Tel. 011-561-7153 (代表)

北星学園大学附属高等学校

〒004-0007

札幌市厚別区厚別町下野幌38番地

Tel. 011-897-2881 (代表)



hokuseiyoichi



HokuseiYoichi



hokusei.yoichi



hokuseiyoichi



ブログ「北星余市は、いま!」

